

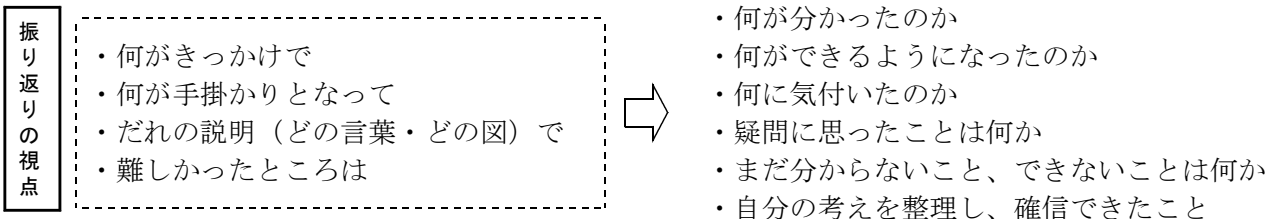
(5) 研究の重点と内容

(重点1) 伝え合う目的を明確にした話し合い活動

- ① 目的意識・相手意識をもたせた授業を展開する
 - ・ 単元・話し合いのゴールは何か
 - ・ 何のために話し合うのか
 - ・ 何について話し合うのか
 - ・ 誰に何を伝えるのか
 - ・ 伝えるための方法は何が適切か
- ② 話し手の意図をくみ取るための場を設定する
 - 復唱（自分の言葉で改めて伝え直す）の場
 - ・ 話し手が言いたいことは何か
 - ・ 教科の言語を用いて共通理解が図れるか
 - 質問（より理解を深めるために）の場
 - ・ 話し手の考えと一致しているか

(重点2) 学びや変容を自覚し、次の学びにつなげる授業づくり

- ① 学びや変容の自覚化を促す
 - ・ 振り返りの視点をどうするか
 - ・ 振り返りの価値付けをどうするか



- ② 自分の考えを再考する時間を確保する
 - ・ 学習形態をどうするか
 - ・ どのような方法で伝え合うのか（付け足す、取り入れる、見直す、自分の考えに自信をもつ）
 - ・ 話す・聞く観点は何か
 - ・ どの場面で再考するか（共有、協議、討論、まとめなど）
- ③ 子どものつまずきや伸びを捉え、指導の手立てを見直す
 - ・ つまずいているところはどこか
 - ・ 考えが深まった（広がった）のはどこか
 - ・ 何に気付かせたいのか
 - ・ 個に応じた「わかる・できる」ための手立ては何か ふりかえりの視点

(6) 授業づくりの具体的な手立て

【必要感】子どもが「解決したい」と思えるように、導入の手立てを工夫する。

【ねらいの明確化】本時で何ができるようになればよいかを明確にする。

【主体的な学び】子どもが自分で解決方法を見いだしたり、助け合ったりしながら、学習を進めることができるように、指示や発問を精選する。

【ファシリテート※】分かる・できる子どもが活躍するだけでなく、困っている子どもの考え等も生かしながら、「分かった」「できた」につなげる授業を展開する。

【子どもに寄り添う】様々な場面において、子どもの発言や、頑張ろうとする姿、挑戦する態度等を受容的に取り上げ、認める言葉掛けを行う。

【振り返り】本時の学びや自身の変容が自覚できるように振り返りの時間を確保する。

※「ファシリテート」参加者全員の意見を引き出し議論を建設的に進めること。合意形成や問題解決の促進を図ること。